

仙台市議会議員（宮城野区）

## 赤間 次彦 市議会通信



平成 29 年第 2 回定例会報告

2017 年 夏 号

発行/赤間次彦 〒983-0821 仙台市宮城野区岩切字今市東 18-1 TEL・FAX: 022-255-0095  
http://www.sendai-akama.jp mail@sendai-akama.jp

## 平成 29 年第 2 回定例会報告

日頃よりの仙台市政へのご協力に感謝申し上げます。

今回の仙台市議会報告は、平成 29 年第 2 回定例会（6 月 8 日～23 日）の報告をさせていただきます。第 2 回定例会では、平成 29 年度補正予算を含む 12 件の議案を可決いたしました。

関心を集めた質問は、市立中学校でいじめを原因とする自死事案が相次いで発生したことを受け、いじめ問題に対する対応や、今後の取り組み、また、教育や子どもに関する様々な課題に対し、多くの質疑が行われました。

また、今会は奥山恵美子市長の最後の定例会となり、奥山市政の総括や今後の市政についても議論されました。

今レポートは「自由民主党」の代表質疑と答弁の要点を記載させていただきました。

是非一読いただき皆様の仙台市政へのご意見を頂戴したいと考えております。

## いじめ・自死問題について

**質問** 平成 26 年 9 月の中 1 生、平成 28 年 2 月の中 2 生の自死以降、いじめ問題専門委員会による度重なる調査提言を受けても 3 度目の自死を防ぐことができなかった。調査が十分でなかったのか、委員会や教育局による対策が適切でなかったのか、それとも学校現場に原因があったかどうか、分析して対応しなければ同じことの繰り返しになる。どう捉えているのか。

**答弁** 再発防止の提言を受け、いじめ事案に対する組織的対応について繰り返し指示をしてきた。しかしながら 3 件目の自死事案を防ぐことができなかった事は大変重く受け止めている。教員のいじめ対応の取り組みにも差があったことや、配慮を要する生徒の指導方法、対応に関する情報共有等も、具体的な指導方針等を示し、実践することが不十分であった。

現在、各学校に対して、いじめ事案への対応の再確認など緊急対策を取っている。加えて市長が設置する第三者機関における調査、検証を踏まえ、適切な対応につなげていきたい。

**質問** 4 月の事案では、文科省により市長の調査を指導された。市長の主導的な判

断を促すことができなかった議会議員として市民として慚愧に耐えない。

今後は市の総力を結集して教育行政を

サポートする相応の部署を速やかに設置すべきであり、仙台の子供たちを健やかに守り育てる取り組みを進めるべきだ。市長の英断を求める。

**答弁** 先に発生した 2 件の自死事案を受け、危機感を持って再発防止の取り組みを進めてきた。しかしながら今回 3 例目となる事案が発生し、さらに教員による体罰が明らかになるなど学校及び教育委員会の取り組み、調査に対する信頼が大きく毀損されていることを実感している。

いじめ問題専門委員会とは別に第三者機関を設置し、体罰に関する調査や、いじめ防止の取り組み等のさらなる検証を進める必要があると判断した。

本市の教育行政との関わりを総合的に捉えながら、支援・反映させる体制の整備に向けた取り組みを進めていく。



**質問** 教育現場は多忙で教員が子供たちにしっかりと向き合うことが困難となっているとの指摘も多い。対策は必要だが過度に負担がかかり対応力が低下することがあってはならない。そのバランスをどう図るのか。学校現場の課題を克服できるのは、管理職・校長・教頭の指導監督力だ。これを柔軟・的確にサポートできる体制の速やかな整備が求められるが、如何か。

**答弁** 自死やいじめの防止に向け、一人ひとりの児童生徒との面談の実施は不可欠だ。

一方、いじめの対応や支援を必要としている児童生徒への対応等で教員・学校に求められる役割は拡大し、その負担は増している。負担の軽減を図り、子供と向き合うことができるよう業務のバランスをとっていきたい。

また現在校長 OBを相談員として配置し、巡回相談支援を行っている。学校現場の状況を確認しつつ、今後さらなる支援体制の強化に向けて検討していきたい。

## 危機管理について

**質問** 昨今、北朝鮮の弾道ミサイルなどの発射や、テロリズムが頻発しており、これらの暴挙に対し強い怒りと、犠牲者への深い哀悼の念を共に表す。

現在テロやミサイル、武力攻撃等に備えるため、各自治体で国民保護訓練が計画・実施されているが、本市においても市民の安全を確保する取り組みは必須であり、今後の対応を急ぐべきだ。

**答弁** 本市ではテロ災害に対する実働訓練を実施したほか、ミサイル落下時に市民の皆様のとるべき行動や情報の入手方法について、市のホームページなどでお知らせしてきた。今後もテロの発生を想定した訓練等を実施するなど、安全の確保に向け取り組みを強化していく。

**質問** 大雨時の指定避難所の開設や、地域防災計画の修正、自治体の基準がたびたび変更されたことにより、地域住民が混乱する恐れがあるため丁寧な説明と普及が必要だ。現在の課題と今後の取り組みは。

**答弁** 様々な災害に対し、市民の皆様到的確な避難行動をとっていただくためには、計画の内容を十分に理解していくことが大切だ。市政だより



や回覧板等を活用してお知らせするとともに、地域での説明会など様々な機会をとらえ丁寧に説明していく。

**質問** 本年3月11日に、議員提案の仙台市防災・減災のまちづくり推進条例が制定されて3ヶ月が経過した。おそらく世界で唯一の理念となる『すべての市民の安全と安心の為、地域における防災及び減災の取り組みを通じ、より良い地域社会の形成に努める』は、災害だけではなく普段の生活の様々な場面における思いやりや助け合いの心と行動を養うことが期待される。所見はいかがか。

**答弁** 地域の防災の取り組みが活発化することを通じて、高齢者の見守りや児童生徒の防犯対策など、様々な地域課題の解決にも寄与することが期待される。地域コミュニティの強化につなげていきたい。

**質問** 6月12日には、条例制定後初のシェイクアウト訓練(身体保護訓練)を含む関係機関との指導別訓練が行われたが、その成果と課題は如何か。

**答弁** 今年度の総合防災訓練は市民の皆様が広く参加できる、身体保護訓練と防災関係機関との実働訓練を実施した。

身体保護訓練には約42,000人の市民の皆様にご参加いただき、実働訓練では公的機関だけではなく、建設業協会や隊友会等、協定締結団体の皆様にも参加いただいたき、連携について確認した。

## 復興について

**質問** 本市の震災復興計画関連事業費は、執行率の90%弱という段階まで進んでいる。復興を切り開いてきた当局の尽力を評価するとともに、今後も被災者に寄り添いながらハード・ソフト両面に置いて、今と未来の仙台の安全と安心を守る責任の遂行を期待する。

また、地震・津波への油断は禁物で、避難道路や施設等の自然災害に備えるための各事業は一層の加速が求められる。同時に震災で受けた心の観察とケア、生活再建や自立、地域コミュニティの形成等への支援は中・長期で考察せねばならない。現状と今後の活動は如何か。

**答弁** 時間の経過とともに心の健康や社会的孤立が懸念されることから、一人暮らしの高齢者やひとり親世帯等に対して、改めて個別訪問を行い、健康支援や地域による見守り活動につなぐ取り組みを進めてい

る。今後も、地域の支えあい活動が持続的に行われるよう、町内会同士の情報交換、人材育成を支援するなど、社会福祉協議会等と連携しながら、コミュニティの活性化に向けて取り組んでいく。

**質問** 本市唯一の海水浴場である深沼海水浴場について再開を求める意見が出されていた所、今年7月29・30日、地元住民と児童に試験的に限定開放することとなった。安全確保と検証を十分に留意した上での最速の再開工程は。

**答弁** 昨年度行った離岸流調査により、一定の安全性が確保できる見込みが立ったことから、今年夏に地元の小学生を対象にイベントを行うこととした。イベント実施後は課題等について引き続き地域の皆様と意見交換を重ねながら、再開の可否を含め整理していきたい。

### 財政問題について

**質問** 本市の財政見通しによれば、平成30年以降、各年度の収支差は150億円以上の赤字と予想され、財政調整基金の切り崩し等の単年度限りの対策には限界がある。財政運営の現状、及び将来について、どんな認識と展望を持っているのか。

**答弁** 社会保障関係費は確実な増加が見込まれ、老朽化が進む公共施設への対応も喫緊の課題だ。取り得る最大限の対策をとっているが、本市財政状況は今後とも収支不足が見込まれており、硬直化が進んでいると認識している。

本市としては引き続き東西線を中心とした都市基盤整備等、都市としての魅力向上や、東北連携による交流人口の拡大を通じた経済活性化、税源涵養等による歳入の確保等に取り組み、不断の歳出削減、効率化など、財政健全化に対する取り組みを積極的に進めていく。

### 地方創生について

**質問** 仙台の持続的な発展のためには人材や製造、農産品等の各資源で仙台を支えている東北6県227各市町村との共存共栄、広域連携が必要である。

今後の東北連携、地方創生に関する体制と取り組みに関する市長の所見、新市長に期待するところは何か。

**答弁** 人口減少が著しい東北地方に於いて唯一の100万都市である本市は、人口流出を止めるダムとしての役割に加え、国内外から人や活力を呼び込み東北各地へ、

活力を還流させる拠点としての役割が求められている。

東北各地域の持つ自然、文化、産業などの連携により、魅力あるコンテンツを創出しながら、内外に対して積極的に発信していくことが不可欠と認識している。本市が先頭に立って各地域との連携が進み、東北全体の活力増強につながるような取り組みを将来にわたって推進していきたい。

### 経済・文化・観光について

**質問** 6月10・11日、市内で復興を願う東北六魂祭の後継イベントとして東北絆祭りが開催された。その成果と課題についての速報を伺う。

また、今後、各自治体持ち回りで開催されることを提言するが、期間中に開催された各市長との会合結果と合わせて見解を伺う。

**答弁** 2日間で45万2千人ものお客様にご来場いただき、消費行動等による経済波及効果やこれから開催される6市の夏祭りのPRにつながった。6市長等との会議では六市一巡を目指すこと、被災地を優先することなどの方向性について合意が得られ、秋をめどに開催地を決定する。本市としては六市一巡開催が実現できるよう、中心となり支援調整していきたい。



**質問** 今年の1月から3月の東北六県での外国人宿泊者数は約20万3千人であり昨年の同時期の58%増で、全国が3%増に比しても大きな伸び率となった。

これまでの仙台への宿泊者の数値と評価、今後の取り組みはいかがか。

**答弁** 市内、外国人宿泊者数は約12万8千人となり過去最高を更新した。内訳は台湾が約4万人と最も多く、次いで中国、アメリカの順となっている。

要因としては仙台国際空港への国際定期便の増便や、新規就航、北海道新幹線など交通面での環境整備が進んだことに加え、タイや台南市などとの交流促進の取り組みやプロモーションも一定の成果を上げているものと認識しており、さらなる外国人観光客の増加に向けた取り組みを進めていく。

**質問** 東南アジアの方々には雪が好きと聞いていたが今回の冬季宿泊者の数値に現れた。今後の課題は冬季以外の東北・宮城・仙台の魅力化と発信を如何にするかだ。

外国人の日本への訪問目的は、富士山、寺社仏閣、伝統的町並み、温泉、日本食などだ。歴史的風致を生かした観光施策に着手すべき時期が到来したが、如何か。

**答弁** 本市が実施した外国人動態調査でも、自然景観や歴史文化の訴求力の高さが明らかになるなど、観光面における歴史的風致の価値が再認識されている。本市としては映像技術の活用など、新たな手法を用いながら観光地としての魅力向上に向け、引き続き取り組んでいきたい。

**仙台東道路の必要性について**

**質問** 仙台東部地区道路ネットワーク検討会が設定され、昨年11月に県とともに国交相あてに、仙台市東部地区も道路の強化要望を行い、仙台東道路を国に要望と報道された。都市計画道路が廃止されている中で、仙台東道路の必要性やバランスについてどう捉えているのか。

**答弁** 現状においても慢性的な渋滞が発生している国道4号バイパスの機能強化について国に要望を行った。本市としては都市整備や今後のまちづくりとの整合性を十分に踏まえながら国等関係機関との協議に臨んでいきたい。

**待機児童問題の認識と今後の対応について**

**質問** 市の待機児童数は国の新たな待機児童の定義や、市が展開するに伴う保育事業に喚起され、受け皿が追いつかない状況だが、どんな認識を持つのか。

この状況が今後どれほど続くと予想し、どんな対応をとっていくのか。

**答弁** 女性の就業が進んでいることや、保育基盤の整備がさらなる保育需要を喚起するといった面もあることから、現時点においては予測をする事は難しいと考えている



が、現在来年4月に向けて約1500名の定員増を図る取り組みを進めている。

**総合交通政策について**

**質問** 東西線が開業して1年半が経過した。南北線は堅調な利用数になされており、東西線の利用数の伸びが課題だ。東西線の利用に関する動向と今後の見通しは。

**答弁** 速報値ベースの比較では平成27年度の平日の一日平均49700人に対し、平成28年度は56400人と乗車人口で6700人、一日にして13%の増となっている。

通勤・通学の認知が進んでいるとみられ、沿線での土地利用転換や、施設立地等の動きもあることから、乗車人員は引き続き増加していくものと期待している。

**市政の総括について**

**質問** 今議会は市長最後の定例会となった。未曾有の大震災からの復興をこれまで進めてきたこと、未来の本市のまちのあり方の足掛かりを築いてきたことを評価する。8年前の市長就任時に思い描いた市政運営が大震災によって大きく変わらざるを得ない中で、東北の牽引役としても歩んできた、自身の足跡を振り返り、今どんな考えを持っているのか。

**答弁** 就任直後から総合計画の策定に取り組み、東北の持続的な発展を牽引し続ける本市の姿を描き準備を進め、その歩みを踏み出そうとする時、東日本大震災に見回れ、以来一日も早い市民生活の再建、ふるさと仙台の再生に全力を傾けてきた。

その過程にあって地域、企業、大学、NPO等の皆様が、その持てる力を十二分に発揮し、復興に力強く取り組む姿に100万都市仙台的底力を見る思いがした。

一方震災の中にあっても、市立病院の建設や、地下鉄東西線など、新しい時代に向けての都市インフラを整備するとともに、国際センター展示棟の建設や、国連防災世界会議などの大規模な国際会議誘致を進めてきた。

私としてはこれらの取り組みにより、復興後の仙台の展望を見据え、一定の方向性を出すことができたものと認識している。

仙台市議会議員（宮城野区）

**赤間次彦 自宅事務所**

〒983-0821 仙台市宮城野区岩切字今市東 18-1  
 TEL・FAX : 022-255-0095  
<http://www.sendai-akama.jp>  
[mail@sendai-akama.jp](mailto:mail@sendai-akama.jp)

赤間次彦 自宅事務所



皆様の声をお聞かせください。ご協力よろしくお願いたします。